

原 著

齲蝕リスク評価による若者における歯石沈着の予測性

増田美恵子¹⁾ 荒川 浩久²⁾

概要：歯石は歯周疾患のリスク因子の一つであり、歯石の沈着にはプラークの付着と唾液性状の関わりが大きい。歯石沈着のしやすさを、齲蝕リスク評価に用いられている唾液検査で予測できるという仮説を立てた。そこで、唾液流出量、唾液緩衝能、唾液 pH および唾液の粘稠度と、歯石沈着との関連を分析した。また、口腔清掃習慣と歯石沈着との関連についても検討した。

目的変数を歯石除去および研磨後の 8 週間後の歯石沈着状態とし、歯石沈着の「多い」グループ、「少ない」グループに 2 分し、説明変数として各唾液検査項目のそれぞれを同じく平均値で 2 水準化し分析した。

その結果、齲蝕リスク判定に用いられている唾液検査結果のうち、唾液粘稠度の「さらさら・ふつう」唾液のものに有意に歯石沈着が多かった。また、デンタルフロス使用グループでは、歯石増加率で有意な歯石沈着抑制がみられた。

索引用語：歯石沈着予測、齲蝕リスク評価、唾液検査、口腔清掃習慣、デンタルフロス

口腔衛生会誌 59：86-92, 2009

(受付：平成 20 年 10 月 3 日／受理：平成 21 年 1 月 14 日)